マタイの福音書　20：1-16［この世と違う天国の正義］　2018.10.28.　劉（ユ） 忠烈（チュンヨル）

■本文の背景

本文は、イエス様がガリラヤからエルサレムに行く途中、弟子たちに語った例え話です。

これを語る少し前、ある金持ちの青年がイエス様の所に来て尋ねました。

「律法はすべて守ってきましたが、永遠のいのちを得るためには、何がまだ欠けていますか。」

イエス様が答えました。

「あなたの財産を売り払って、貧しい人たちに与えなさい。そのうえで、私に従ってきなさい。」

すると、その青年は悲しみながら立ち去りました。その後、ペテロがイエス様に聞きました。

「私たちはすべてを捨てて、従ってきました。それで、私たちは何をいただけますか。」

本文はこのペテロの質問に続くイエス様の答えです。

■本文の内容

本文に登場するのは‘ぶどう園の主人’と‘労働者たち’です。

主人は労働者を雇うために市場に出かけ、労働者たちは仕事を得るために集まります。

主人は早朝に出会った最初の労働者たちと‘1 デナリの賃金’を約束しました。

その後も主人は夕方まで何度も出かけました。

そして、遅く出会った労働者とは‘相当の賃金を払う’と約束しました。

しかし、仕事が終わって彼らがもらった賃金は、最初の人も最後の人も同じ‘1 デナリ’でした。

すると、最初の労働者たちが主人に不満を言いました。それに対して主人はこう答えました。

「あなたは 1 デナリで同意したではありませんか。私は最後の人にも、同じだけ与えたいのです。」

■メッセージのポイント

最初の労働者たちは、なぜぶどう園の主人と対立するようになったのでしょうか。

（１）最初の労働者たちが、自分に与えられた恵みを忘れたからです。彼らは 1 デナリの賃金を、自分がもらうべき当然且つ最低の報酬だと思うようになりました。

（２）最初の労働者たちが遅く来た人たちを、同じ恵みを受けるのに足りない人だと思ったからです。

彼らは 1 デナリが自分自身と他の労働者にとって、どんな意味があるのかを忘れました。

（３）‘最初の労働者たちの思う正義’と‘主人の思う正義’が違っていたからです。最初の労働者たちは、天国の恵みをこの世の方式で受け取ろうとしました。